



みんなで見守ろう／

子どもたちの安全・安心



あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動

市民総ぐるみで取り組む、いじめや虐待のないあざましいまちづくり運動として、「あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動」を春休み明けに実施します。登校時間帯に合わせて、自宅前などの子どもたちへの温かい言葉掛けに、ご協力く

新入学児童を交通事故から守ろう！

4月は小学校へ入学する子どもの交通事故が多く発する時期です。入学したばかりの子どもたちは、学校までの通学路をまだ安全に通行できません。また、自分自身では交通事故から身を守ることもできません。子どもたちを交通事故から守るために、十分注意しましょう。車両を運転する際

は、交通ルールやマナーを守り、安全運転に努めましょう。

■問い合わせ先 地域交通課 (☎ 35-1102)

気を付けよう！ 電池の処分は適切に

燃やせないごみへ

●乾電池（マンガン乾電池・アルカリ乾電池）



●リチウムコイン電池



一般社団法人JRBC の回収協力店へ

●小型充電式電池（ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池）

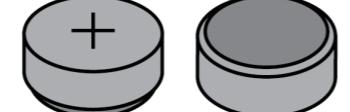
以下のリサイクルマークが目印



ボタン電池回収推進セ ンターの回収協力店へ

※リチウムコイン電池は回収していません。

●ボタン電池



市立博物館が所蔵するお宝を、毎月紹介します。
■問い合わせ先 市立博物館 (☎ 35-0700)

博物館のお宝 拝見

第1回 小川破笠「関羽図」

小川破笠（はりつ）（1663～1747）は、俳諧や絵画、「破笠細工」と呼ばれる漆工芸の制作などで活躍した多才な人物です。破笠は五代藩主・津軽信寿（のぶひさ）の頃、61歳にして弘前藩のお抱えになっていますが、その具体的な経緯は不明です。一方で破笠の作った玩具や細工物の出来の良さが評価されて召し抱えられるようになった、といった逸話がいくつか存在し、破笠の工芸技術への評価の高さがうかがわれます。

この「関羽図」（元文5年（1740）頃成立）の見どころは関羽が着用している甲冑や、青龍偃月刀（せいりゆうえんげつとう）の細工部分の描写です。金泥という金の粉を膠（にかわ）でといった絵の具を使用して細工や文様を描出するのですが、その線の硬質さや描写の細やかさ

に特徴があり、「関羽図」にもそれがよく表れています。全体的に線に硬さが感じられるところや、着衣の文様の精密さ、金具部分は胡粉（ごふん）を使って立体的に盛り上げるなど、細部に工夫が見られるところから、破笠の職人気質な性分が想像されます。

同作品は、4月4日（土）より市立博物館で開催する企画展「津軽アーティスト列伝」（本誌18ページに掲載）でご覧になります。



弘前の偉人たち

第1回 津軽を支配し、藩政をしいた 津軽為信



津軽を支配していた南部氏は、津軽の要所に一族の者や南部氏に従う武士をおいて、その立場を固めましたが、おさめる土地があまりに広大になり、次第に家臣たちがばらばらな行動をとるようになりました。このような南部氏の弱点をついて津軽統一に乗り出したのが、南部氏の家臣だった大浦為信（のちの津軽為信）です。

為信は1550年（天文19）生まれ。身長は180cm以上もある大男で、戦国武将の中でも随一の髭（ひげ）の濃さで知られ、あまりの髭の濃さから、家来たちは為信のことを「髭殿」と呼んでいました。為信が10歳の時、伯父である大浦為

市教育委員会が発刊している「新・弘前人物志」から、弘前が生んだ偉人たちを毎月紹介します。みなさんが知らなかった偉人と、出会えるかもしれません。

■問い合わせ先 教育センター (☎ 26-4803)

則（ためのり）にひきとられ、18歳のとき為則の娘、戌姫（いぬひめ）と結婚し、その養子となります。そのときから大浦為信を名のり、為則の後を継いで大浦城の第5代城主となりました。

為信は、1571年（元亀2）に石川城を攻略してから1597年（慶長2）に浅瀬石城を落とすまで、破竹の勢いで南部氏の領土を切り取り、津軽統一を果たしました。

「弘前人物志」は、弘前が生んだ・傑出した人物を、中学生の皆さんに知ってもらいたいという目的で1982（昭和57）年に初めて発刊されました。紹介した人物をもっと詳しく知りたい人は、「新・弘前人物志」をぜひご一読ください。

